

静岡市立長田東小学校

静岡県埋蔵文化財センター

令和6年6月5日(水)

体験授業レポート

「体験の時間や説明の手厚さなど、

子どもにとって充実したものになりました。」

静岡市立長田東小学校の6年生148人が、様々な体験を通して、当時の人々の暮らしの様子を具体的に想像したり、文化財センターの職員の講話を聞いて、働くことの意義を考えたりすることを目的に、見学や講話と土器の分類、石器の試し切り、火起こしの3つの体験を行いました。

発掘調査と 周辺遺跡の話



キャリア教育の一環として、文化財を保護する仕事について話しました。子どもたちは、身近な職業ではないため、興味をもって聞いていました。講話の後は展示室の見学をし、土器などがたくさんあることに驚いていました。

「思ったより昔のものがたくさんあって、用途不明なものとか、すごく昔のものがこんなにいっぱい残ってるだと思った。」

展示室の見学



土器の分類体験



本物の縄文土器・弥生土器・須恵器をさわって、土器の厚みや質感などを感じ取り、土器片を3種類に分けました。

展示室の土器はガラスケースに入っているため、見た目しか分からなかったことが、さわったことでいろいろ気づいていました。

「3種類の土器に実際に直接さわられて、すごく貴重な体験になった。」

石器の試し切り体験



旧石器時代や縄文時代には金属を使う文化が発達していなかったため、石を割ったり磨いたりして生活していたことを学習した後、黒曜石で紙や野菜を切ってみました。思っていたより切れることが分かり驚いていました。石器時代の人々の暮らしを感じる良い機会になったと思います。

「思ったより切れてビックリした。」

火起こし体験



火起こしをやったことがない子どもたちが多かったのですが、やり方は何となく分かっていたようで、試技の後、班ごと弾み車を回し始めました。ひとりで回すのが大変になると、

ふたりで協力して回し、火種を作ることが出来ました。短い時間の中で3回も火を起こす班もありました。

「ひとりでは大変でなかなかできなかったけど、所員さんが手伝ってくれて火がたった。とても楽しかった。」



先生方の感想

「体験の時間や説明の手厚さなど、子どもにとって充実したものになりました。センターの職員さんには、温かい対応や質問への丁寧な解説をしていただき、とても有難かったです。お忙しい中、ありがとうございました。」

